



The newsletter of

The International Focusing Institute

フォーカシング研究所 [in Focus イン・フォーカス](#)) 2016 年 10 月

Note from Catherine キャサリンからの手紙



皆様

私は、第 11 回フォーカシング研究所サマースクールをカリフォルニア州ジョシュア・ツリーで開催することをも楽しみにしていました。多

くの人から、この砂漠地帯がスピリチュアルな場所であると聞いていたからです。私の育った米国北東部は落葉樹が多く、夏は緑の木陰で、秋は色鮮やかなタペストリーで、憩いの場を提供してくれます。ここでは、大地が荒涼感を感じさせるのは真冬の間だけです。そうした時季には、皆、暖かく着込んで、寒さから逃れ、暖かな家、オフィス、車へと駆け込みます。ですから、私は、荒涼とした、暑く、広大な砂漠地帯への好奇心でわくわくしていました。

ところが、モハービ砂漠に到着した時、私が最初

に味わったのは失望でした。大地は、荒涼とした風景の美しさを見せるかわりに、私の眼には、ただ不毛の地として映りました。私には、広大な田舎の景色がうら寂しい空虚(シェイクスピアの言葉を借りれば、「荒れはてた岬の岩肌」)にしか見えませんでした。ツリー

目次： この号では・・・

- キャサリンからの手紙
- エッジから書く
- 理事会から
- フォーカシングの対話
- メンバーシップ委員会: フォーカシング・ラウンドテーブル
- メンバーになる
- 国際リーダーシップ評議会: 新任メンバー紹介
- フォーカシング研究所サマースクール
- TFI 事務局より
- これから行われるイベント
- 資料
- 遺贈
- ディスカッション・リストにご参加ください

と呼ばれても実際には樹木ではない、背の高いサボテン「ジョシュアツリー」が点在しているだけでした。そのフェルトセンスは、それまでの私自身のフォーカシング・プロセスにおいて、内側の世界を、不在感を容赦なく突きつけてくる、不毛の、生命のない、茫漠たる広がりとして体験した時に似ていました。

私の内側のすべてが可能性で満ちているというフォーカシングでの体験にもかかわらず、私は、内側にある深淵な不毛に遭遇するとき、私は、しばしば、「今回は、本当にそこには何もないのだ；今回は、私は本当に単なる空っぽの殻なのだ」という思いで反応します。そして、それに伴って、恥ずかしさや軽蔑、自己嫌悪さえ覚える傾向にあります。

何年も前のハロウィーンの子供の季節のことです。フォーカシング・セッションの最中、私の内なる世界のイメージとして浮かんだのは、空っぽでねばねばと湿った、カボチャ提燈の内側でした。その時、このイメージをどれほど深く心をかき乱すものと感じたか、今でも覚えています。にもかかわらず、それは、まさに、私のからだの体験を表わすイメージだったのです。当時、私は既にフォーカサーとして数年の経験がありましたし、深く困難な内なる現実と遭遇するという体験もしていました。その年月において、私は、それらの内なる現実と共にいることから生じる、高揚的なシフトを体験していました。「でも今回はそうじゃない」—私の内側の空っぽのカボチャ提燈という居心地の悪い真実と一緒に腰をおろした時、私はそう思いました。「ここにある唯一のものは」—私の一部は確信していました—「欠如、欠落：果肉はなくなってしまった、種子はなくなってしまった、内側には価値あるものは何も残っていない—誰もほしがらない、朽ち果てる運命にある、残り物だけ」。それが、私には、ハムレットにとって大地と大空がそう見えたように、「毒気のこもる濁った密室」に思われました。

私のジョシュア・ツリーの体験には、ハムレットのような辛辣な人間観察は伴いませんでした。しかし、私は、その風景の中には自分にとって価値あるものは何もないと感じていました。そのシフトがやってくるまでは。砂漠でのシフトがいつ起こったのか、正確にはわかりません。ただ、それに気づいたのは1~2日後のことだったと記憶しています。驚いたことに、ある午後、夕食会場に向かって埃っぽい道を歩いていたとき、私は独り言を言いました、「ここが気に入ったわ。」 シフトです、確かに！ それは、強制されていない、

予期しない、小さな愉快的奇跡、という感じでした—私が今まで体験したすべてのシフトと同様に。私には、シフトがいつ起きたのかはわかりませんが、なぜ起きたのかはわかります—私がそこにとどまっていたからです。私がじっとして、とどまっていたからです。私は、砂漠を、自分の眼には不毛な荒地として、そのままに受け容れました、そして、私とその不毛に対してあがいたり、闘ったりしなかったことが、暖かな空気、開放的な空と静寂な神秘という、それが持つ豊かな宝物を、私に知らしめることを可能にしたのです。

私がじっとして、とどまっていたのは、他に選択肢がほとんどなかったからです。風景は、私が FISS に留まりたいと望むのであれば（事実、私はそう望んでいました、仕事だからというだけではなく、FISS はいつも、私にとって生涯最良の週のひとつであるからです）、私の支配の及ばない—現実でした。私は、よいと思うかどうか自分の意見に関係なく、ただ砂漠を砂漠であるがままに委ねて、それと共にいたのです。

私は、不毛な内なる世界に遭遇するとき、しばしば、それらと戦い、それらをジャッジし、それらを憎み、道徳的見地から憤慨し、まさにそれらが存在することを理由に、自分自身を痛烈にジャッジします。フォーカシング体験は、私に、こうした無は実は「何か」である、と教えてくれます—にもかかわらず、私はそのことを忘れていました。

内なるカボチャ提燈を体験した日、私は確かに、冷たく、ねばねばと湿った、朽ちつつある、空っぽのカボチャの内側に価値ある何かがあるとは（あり得ることさえ）信じていませんでした。こんな絶望的現実と一緒にシフトは起こり得ないと確信していました。と同時に、空っぽの腐りかけたカボチャを、その空っぽの朽ちかけたあるがままに委ねるということも十分知っていました。秘訣とは、私の場合、それを、期待されたシフトゆえではなく、それ自体として、尊重するということです。なおかつ、私にじっとして、とどまっていることを許すものは、私の居心地の悪さと心地よくいることであり、それが、暑く、埃っぽい道の上で、「ここが気に入ったわ。」と独り言を言う自分に気づくというような、小さな奇跡を起こすスペースを創り出すのです。

心を込めてご挨拶申し上げます。

キャサリン

—キャサリン・トルピー，フォーカシング研究所 所長

Writings From the Edge: What Is エッジから書く : What Is (本来の姿)

Ali Lufkin, 認定フォーカシング・プロフェッショナル

私は、フォーカシングパートナーと一緒に腰をおろして、ある感覚を描写し始めます。それはまるで、私の下腹部にあり、かつ、お腹の正面から 8 インチほど外に向かって伸びているような感じがします。この感覚は、一種、独楽が回転するような資質をもっていて、重く、丸く、発熱しているような。私の両手を使って、お腹のあたりでジェスチャーをして、それを十分に描写します、押すように。

詳しくはこちらより

Ali Lufkin は、最近、認定フォーカシング・プロフェッショナルに認定されました。コロラド州レッドビルの山地に、フォーカシングパートナーである夫のジョージと犬のグリズリーと暮らしています。Ali は監督教会の牧師であり、成人した娘二人が巣立ったあと、夫婦二人きりの生活が始まったばかりです。Ali への連絡先: lufkinali@hotmail.com

本号の「Writing From the Edge (エッジから書く)」は、国際的なフォーカシング・コミュニティのメンバーからの投稿を特集します。投稿方法の詳細についてのお問い合わせ先: Scott Will (scott@focusing.org)

Board of Trustees – Carrying Forward the Tradition

理事会から一伝統を推進する ケビン・クリスカ Kelvin Krycka



私は、先日、リン・プレストン Lynn Preston と共に、「パーソンセンタードと体験的心理療学会」に出席し、ジーンの代理として生涯業績賞を受賞させていただくという栄誉に預かりました。会場に集まった約 200 人の聴衆は、授賞式の最初の 20

分間、電話で参加して下さったジーンの声に大きな感動を覚えました。ジーンはお元気そうで、ユーモアをまじえて、表彰に心から謝意を表し、敬愛するカール・ロジャーズとのつながりにも触れられました。リンと私は、ジーンが世界に寄与した生涯にわたる業績を紹介しました。私は、「伝統を推進する」と題して、“typical”だとされるものを逆さまにひっくり返し、私たちを、個人の内面、人間関係、社会、文化を包括したスケールで、“generativity”へと方向づける、ジーンの新しい哲学に焦点をあてました。私は、ジーンの哲学がフォーカシング・コミュニティにも挑戦課題を投げかけていることにも言及しました。すなわち、“interaction first,” “carrying forward,” “implicit intricacy”という、ジーンの哲学の中核を成す3原則を、私たちの治療活動の土台に据え、その応用範囲を他の分野や活動へと拡大することです。私は、最後に、フォーカシング研究所とメアリー・ヘンドリックスの功績を紹介しました。

理事会のメンバーとして、私は、より規模の大きなパーソンセンタード・コミュニティの皆さんに、研究所の様々な活動を通じてジーンのレガシーを継承していくという私たちの決意を伝えたいと思いました。たとえ創設に関わった方々が私たちのもとを去る日が来るとしても、私たちは堅固な基盤に立って邁進し、ジーンの哲学とフォーカシングの実践を未来、何世代にもわたり、生き生きと追求し続けるというメッセージは、聴衆の心に届いたものと信じています。

謹んで

ケビン

[ケビン・クリスカ Kevin Krycka](#) と [リン・プレストン Lynn Preston](#) についての詳細はこちらから。 [New York City Person-Centered Resource Center](#) もご覧ください。

Focusing Conversations

Join us for the Focusing Conversations series, hosted by Serge Prengel!

[フォーカシングの対話ーサージ・プレングエルが聴く](#)

9月：Cynthia Callsen

Window into New York Metro Focusing

[対話を聴くにはこちらから](#)



イタリアのフォーカサーCaterina Carta のビデオ

A Gentle Sense of Resilience

[ビデオを視聴するにはこちらから](#)



Focusing Roundtables – a New Program

Sponsored by the Membership Committee

フォーカシング・ラウンドテーブルメンバーシップ委員会による新プログラム

スーザン・レノックス Susan Lennox



私は、今日、メンバーシップ委員会を代表して、「フォーカシング・ラウンドテーブル」と題する新シリーズの開始をお伝えできることを嬉しく思います。このプログラムは、TIFI 現会員限定の新しい特典です。スモールグループの対話は、フォーカシングに関する興味や関心を仲間と共有し探究する、インフォーマルなピア・トゥ・ピア型のスペースを創出します。ラウンドテーブルは、オンラインのビデオカンファレンスの形式で、世界各地からメンバーが参加し、ホストと参加者がお互いに顔を見て、自由に対話することができます。

10月10日には、第一回を記念して、「Gender Differences in Focusing – A Shared Exploration」をテーマに、Bruce Nayowith がホストを、Bruce Gibbs, Jocelyn Kahn, Andrew MacDonald, Karen Whalen が共同ホストを務めます。今回のラウンドテーブルは、ジェンダーの視点から、フォーカシングにおける男女の類似点と相違点を、様々な興味深い角度から自由に探究するスペースを提供します。あなたは何を体験しましたか？ あなたは何に興味がありますか？

たとえば、次のような質問から探求を始めてもよいでしょう。「あなたは、フォーカシングへの関わり方として、男女間の違いに気づいていますか？ リスナーまたはフォーカサーとして、同性とのフォーカシングと異性とのフォーカシングとを比較して、何か気づくことがありますか？ フォーカシングでは、男性的なエネルギーと女性的なエネルギーは現れ方が違いますか？ フォーカシングスタイルの違いがあることに気づいたことがありますか？ フォーカシングは、どんなふうに、あなたのもつ、見守り育む、受容的な特質のための場所を創出しますか、それとも抑制しますか？ あなたの作動的(agentic)な、目的のある、“物事を済ませよう”という特質についてはどうでしょう？」

これらの質問や関連する質問に興味をそそられた方は、是非、10月10日のラウンドテーブルに参加しませんか？ 持ち物はあなた自身の質問と好奇心です！ インフォーマルな対話を促進するために、定員は20名です、お早めにお申し込みください。

スーザン・レノックス



Become a Member メンバーになる

フォーカシング研究所のメンバーになると、国際的フォーカシング・コミュニティとつながり、その動向を知ることができます。研究所は、人々がフォーカシングを様々なやり方で生活や仕事に統合していくことを助けることと、フォーカシングやフォーカシング教育が盛んになり進化し続けることを見守ることを目的とする、支援的な基盤です。これまでの蓄積を整理してまとめておくことで、人々がそれにアクセスできるようにしています。暗在の哲学に関する哲学的コミュニティの活性化を支援しています。

フォーカシングを人々に伝えるためには、多くのレベルでの普及活動が必要です。宣伝、資料の保管、フォーカシングを学校、医療、教会、産業やその他の領域に伝えることなどです。フォーカシングをこれらの領域に紹介するために、お互いに知り合うとよいだろう

という人々を世界中で結びつけています。メンバーになることは、このような私たちの取り組みを支援する方法の一つです。そして、私たちは非営利団体ですので、皆さんの寄付は非課税となります。

国際的なコミュニティである私たちにとって、それぞれのメンバーは特別です。皆さんが私たちがともに行っているこのような仕事を大事に思っ、あなたの生きるエネルギーのいくらかを注いでくださることを深く感謝します。それは、教育であったり、個人的成長であったり、企画運営であったり、お金やその他の方法であるかもしれません。

[詳しくはこちらより](#)

International Leadership Council – Introducing New Members

国際リーダーシップ評議会（ILC） – 新任メンバー紹介

今年 6 月、ILC のメンバー、バーバラ・マクギャバンとマリーン・ド・フレミンヴィルのおふたりが 3 年間の任期を終了し、新メンバーとしてロベルト・ラリオス Dr. Roberto Larios とドナタ・シェラー Dr. Donata Schoeller が選出されました。Dr. シェラーと Dr. ラリオスの就任を皆さんと共に歓迎したいと思います。

Dr. Roberto Larios : 一般外科医。心理療法学士。グアダラハラ（メキシコ）においてフォーカシング指向心理療法を実践。物質乱用ワーク、非暴力コミュニケーション（NVC）、カップルとのワークを専門とする。ホールボディ・フォーカシングのコーディネーター・イン・トレーニング。個人およびグループにフォーカシングを教えている。心理療法を学ぶ学生達へのスーパービジョンも行っている。



Dr. Donata Schoeller : チューリッヒ大学より哲学博士号を取得。作家。欧米各地で非常に高い評価を受けている教授。2004 年より、チューリッヒ、ティチーノ、ニューヨークにおいて、フォーカシングを学び、TAE はジーン・ジェンドリンに師事。その他多数の研修を経て、2013 年以降、パリで Prof. Petitmengin の下で Elicitation Method を

学んでいる。現在、フォーカシング・ワークショップで講師、共同講師を務める。また、自然科学・人文学の同僚と共に同メソッドを実践し、チューリッヒ大学、ETH、シカゴ大学、デポール大学、アイスランド大学で同メソッドを教えている。学究活動やワークショップに加えて、学生達が各自の研究プロジェクトに関して、より具現化された統合的アプローチを模索する過程を支援している。

国際リーダーシップ評議会は、TFI 理事会と共働して、方向性を策定する上で中核的役割を担う人材の拡充を図っています。リーダーシップ評議会は、柔軟性のあるグループとして、世界規模のフォーカシング・コミュニティのニーズを満たすために、豊かな英知を反映し、展開することが可能です。[ILCをもっと知りたい方はこちらからどうぞ。](#)

Focusing Institute Summer School – in the desert Joshua Tree, California, USA

フォーカシング研究所サマースクールー砂漠地帯ジョシュア・ツリー(米国カリフォルニア州)で開催

第 11 回フォーカシング研究所サマースクール (FISS)は、いくつかの新しい趣向で充実した 1 週間となりました。

1 つ目は、全員にとって新体験の立地です。ジョシュア・ツリー・リトリート・センターは、カリフォルニアのモハービ砂漠の一角にあります。この自然環境の中で 1 週間生活することは、この機会を活かしたいと考えている参加者各自に、様々な体験をもたらしました。乾燥した暑さ、動植物相の存在は、滞在中、常時、間近に感じられました。私たちがジョシュア・ツリー国立公園を訪れた日はたまたま同公園の開園 100 周年記念



日に当たりました。ジョシュアツリー、灌木や樹木、美しい巨岩群に囲まれ、乾燥した大地の上を歩くことは、とても感動的な、深遠でスピリチュアルな体験でした。素晴らしい夕焼けは、私たちの活動とメッセージを鼓舞してくれているようでした。

FISS 講師陣アン・ワイザー・コーネル、ナダ・ルー、René Veugelers による常に新鮮なコースに加えて、今回、新しく開講した 2 コースのために、新しい講師を招聘しました。

Laury Rappaport は「Focusing and Expressive Arts」を、Soti Grafanaki と William Hernández は「Living the Path of Authenticity...the Pause」プログラムでプレゼンテーションを行いました。いずれのコースも好評を博しました。



午後は、Radical Self-Compassion, Transforming Your Inner Critic, Felt Sense Literacy, Mindfulness and Expressive Art, Exploring Your Personal Collage, Dreams Open Doors to Focusing, The Child's Inner Voice, Pausing and Connecting in Nature 等々、様々な、胸をわくわくさせ、気持ちを高揚させるクラスを提供しました。午後のプレゼン

テーションは時間的には短めの構成でしたが、参加者も多く、好評でした。どのプレゼンテーションも聞き逃さないように時間配分をどう工夫するか、参加者は頭を悩ませたことでしょう。

毎日、朝は Jillian Woodford のリーダーシップのヨガで始まり、午後は、Marieke Hoeve が”Playful Movement through Pulsing”を提供しました。昼食後、参加者は、思い思いに、午後の暑い時間帯をどう過ごすか、選択します。素敵なプールで泳いだり、フォーカシング・パートナーシップをアレンジしたり、エアコンの効いたロッジでシエスタを楽しんだり、ダイニングエリアの日陰で歓談したり。

食事も！ ケータリングサービスは、ほとんどの人にとって、一大イベント。美味しく、色々な種類の大皿料理、趣向を凝らした盛りつけ、気さくな調理スタッフに、一同、心から感謝し、食事を堪能しました。

夜の部も充実したプログラムが満載でした。その一つ、アンとナダは、ジェンドリンの哲学のコンセプトを紹介し、続いて、「Diversity」という重要な信条がいかに様々なメソッドやスタイル、そして”フォーカシングワールド”の展開を促すかを発表しました。



Fr. Peter Campbell は残念ながら FISS には出席できませんでしたが、明瞭なオンライン接続を通じて、”What is the Body’s Role in Spiritual Development?”と題する、90 分間の力強いプレゼンテーションを聴くことができました。多くの参加者が Fr. Pete との対話や質疑応答に参加しました。

“Evening with Gene through many DCD clips”は、多くの参加者にとって、初めてジーン・ジェンドリンの姿を視聴する経験となりました。ビデオクリップに刺激を受け、対話と興味深い質問が繰り広げられました。

恒例のフォーリーズ、FISS タレントナイトはレベルの高いパフォーマンスで大いに盛り上がりました。大勢のプロの音楽家や作家が才能を共有してくれたことは、私たちにとって、本当に幸運でした。特別な才能を人前で見せるのは初めて、という勇敢な新人のフォーリーズデビューはいつも大歓迎です。



もちろん、書籍・DVD の販売コーナーを常設しました。

斬新さ、実験と興奮に満ちた、今回の FISS スペシャルイヤーの運営に携わってくれたスタッフに感謝申し上げます。特に、TIFF スタッフであるキャサリン・トルピー所長, Elizabeth Cantor, Rita Kirsch とアシスタントの方々のご尽力に心から感謝申し上げます。

FISS は、私たち講師が各自の時間を寄付する、国際フォーカシング研究所にとって主要な年次イベントです。その原動力と献身によってこのイベントを成功裡に導いてくれた、講師陣チームの仲間、アン・ワイザー・コーネル, René Veugelers, Laury Rappaport, William Hernández と Soti Grafanaki に感謝します。

ナダ・ルー

FISS チームを代表して

From the TFI Office

TFI 事務局より

Translation and Interpretation

翻訳と通訳

私たちにとってできるだけ多くのコミュニケーションをできるだけ多くの言語にしていることが重要です。もし、皆さんが英語の素材を母国語に翻訳したいというお気持ちをお持ちでしたら、info@focusing.org にご連絡ください。そして、ご自分の母国語と、この重要な課題にどのくらいの時間をボランティアとして提供できるかをお知らせください。

またサマースクール (FISS) や上級認定ウィークロングなどのイベントで (話しことばの) 通訳を提供できることも私たちにとっては重要なことです。通訳を必要とする人が 4 人以上参加している場合には、私たちが通訳のための経費をまかさないです。通訳として働いてもいいという方。あるいは上手に通訳をしてくれそうな人をご存じの方は[私たちにご連絡ください](#)。

Air Miles

航空マイル

私たちはとても国際的な組織です。そして私たちが一堂に会することができる機会は非常に貴重です。しかし、しばしば、私たちのコミュニティのメンバーたちは、フォーカシング研究所のイベントに出席できないのです。それは、イベントの費用だけではなく、非常に高い航空運賃のためです。もし皆さんの航空マイルが貯まっていて、それを寄付してもいいとお思いでしたら、ご連絡ください。皆さんの航空マイルは、理事会や国際リーダーシップ評議会のメンバーがお互い顔を合わせての会合に参加したり、認定を受ける人たちがウィークロングに参加したり、フォーカサーたちが FISS (フォーカシング研究所サマースクール) に参加したりするために使われます。誰かにこのような有意義なつながりを持つ機会を提供するためにご協力をお願いします。

Upcoming Conferences, Retreats and Workshops

これから行われる会議やリトリートやワークショップ

フォーカシングラウンドテーブル

Gender Differences in Focusing – A Shared Exploration

TIFI メンバー限定の新シリーズの一環。Bruce Nayowith がホストを、Bruce Gibbs, Jocelyn Kahn, Andrew MacDonald, Karen Whalen が共同ホストを務める、フリーオンライン対話形式。2016年10月10日(月)。

Living the Dream

2016年10月22日(土) 12~2pm

Leslie Ellis がファシリテーターを務める相互作用のオンラインクラス。フォーカシング・ハイライト・シリーズ「料金は自分が支払える額で」の一環。

ルース・ハーシュ, 医療ソーシャルワーカー, 公衆衛生修士, CMP

フォーカシング基礎

8週間の相互作用のオンラインコース。初心者フォーカサーのためのコース, 2016年10月26日開始。

上級フォーカシング訓練

中級レベルの8週間の相互作用のオンラインコース。2017年1月17日開始
(記者注 : 原文では2016年となっています) 。

Embracing Mystery:

Healing the Trauma Body and Restoring Connection

Shaun Phillips によるニューヨーク市ワークショップ。2017年1月20日(金)6-9 pm (EST)

第9回こどもとフォーカシング会議

2016年10月26-30日。ギリシア, アテネ。第9回こどものフォーカシング会議は, マテイ湾を一望するブティックホテルのカボ・ヴェルデ (Cabo Verde) で開催。

第4回フォーカシング指向心理療法国際会議

2017年6月22-25日。ニューヨーク州ガリソン・インスティテュート。

Resources

資料

2016年9月 The World Day of Listening。2016年10月21日予定。アクティブ・リスニングの実践に取り組んでいる人，世界に変化をもたらす一助となる傾聴の可能性に関心のある人を対象としたイベントです。私たちは，世界各地の個人や組織から成る多様なネットワークです。イベントは，路上での傾聴活動（ストリート・リスニング）から傾聴サークルとしての構造化された活動まで，地域毎に，ローカルリスナーとして運営する上で適した形式で，実施されます。言語別のガイドラインは [FaceBook](#) をご覧ください。

2016年9月 TIFI メンバーシップ委員会からの国際会議最新情報。2016年7月に英国ケンブリッジで開催された国際フォーカシング会議でのワークショップ／プレゼンテーションの様子をご覧ください。

2016年9月 フリーダウンロード。Focusing In Community: How To Start A Listening and Focusing Support Group (Dr. Kathy McGuire)

2016年9月 フリーダウンロード。Focusing en Comunidad Español: Focusing en Comunidad: Como Empezar Un Grupo De Apoyo De Escucha Y Focusing (Dr. Kathy McGuire. 通訳翻訳: Agnes Rodriguez)

2016年9月 イン・フォーカス July 2016。イン・フォーカス ニュースレター日本語版。

2016年9月 Cynthia Callsen との 9月の対話。Window into New York Metro Focusing (NYMF)。サージ・プレングルによる「対話」シリーズの一環で，”Felt Community”メニュー，または www.focusing.org/conversations からアクセスできます。

2016年9月 “A gentle sense of resilience.” イタリア人フォーカサー，Caterina Carta とサー

ジ・ブレンゲルによる対話のビデオ (オフサイト)。Caterina は、^{せい}生の流れと共にあること、人生の試練や課題、病気と化学療法にどう対処しているか、意味によって私たちが意味するもの、より大きな何かとつながっている感じはどんな感じがするのかを語っています。

2016 年 9 月 第 27 回国際フォーカシング会議からの国別サマリー。

2016 年 9 月 理事会議事録 2016 年 8 月

2016 年 8 月 理事会議事録 2016 年 7 月

2016 年 7 月 ジーン・ジェンドリン、生涯業績賞を受賞。第 12 回世界パーソンセンタードと体験的心理療法学会 (WAPCEP), ならびに、アメリカ合衆国身体的心理療法学会より、生涯業績賞を授与されました。

2016 年 7 月 理事会議事録 2016 年 6 月

2016 年 7 月 July 2016 In Focus Newsletter がウェブサイトより配信されます。

2016 年 7 月 7 月の対話は、Sophie Glikson Cahen と Marina Strauss が”What Makes Your Heart Sing”について語ります。サージ・ブレンゲルによる「対話」シリーズの一環で、”Felt Community”メニュー、または www.focusing.org/conversations からアクセスできます。

Bequests

遺贈

皆さんは遺言で研究所のことを触れようかと検討したことがありますか？ 遺贈は、将来にわたりフォーカシングを推進し続ける方法のひとつかもしれません。関心のある方、既に行われた方は私たちにご連絡ください。

Join our Discussion Lists!

ディスカッション・リストにご参加ください。

TFI は、フォーカシングに関するいくつかの E メールでのディスカッション・リストを運営しています。皆様のご参加を歓迎します。[私たちのリストに参加するにはここをクリックしてください。](#)

日本語版 翻訳：株式会社キダアソシエイツ・木田満里代、編集：土江正司